

2014年11月吉日

JARIP 会員各位

日本保険・年金リスク学会
研修会担当理事
伊藤・河野・原田

JARIP 研修会のご案内

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

日本保険・年金リスク学会（JARIP）研修会を下記のとおり開催しますので、各位の積極的なご参加をお願い申し上げます。

なお、会場の関係で募集定員を90名とさせていただきますので、お早目の申し込みをお願いいたします。

敬具

記

1. 研修会の概要

日時：2015年1月30日（金曜日） 午後2時から5時

場所：ラ・メール三番町ビル内、東京海上日動会議室
（1階に東京海上日動社の受付がございます）

〔住所〕東京都 千代田区 三番町 6-4

講師：大塚忠義 博士（経済学）

日本アクチュアリー会正会員

早稲田大学大学院 商学研究科 助教

（講師略歴をご参照ください）

講演題目：

「経営学・経済学の観点からみた生命保険会社の健全経営戦略」

講演概要：

健全性の維持は保険事業者にとってもっとも重要性が高いことは論を待たない。また、保険会社の財務の健全性に対する消費者の関心は高く、監督当局が保険会社の健全性維持の重要性を認識していることも明らかである。

保険事業運営の根幹は、将来に亘る確実な保険金の支払である。他者のリスクを引き受けることによって事業を運営している保険会社は、他の事業者より保有するリスク量は圧倒的に多いうえに、より高い財務の健全性が要求される。

一方で、バブル崩壊後に中堅生命保険会社7社が破綻した要因が十分に分析され総括されているとは言い難い。バブル崩壊後に破綻が連鎖したことと、リーマンショック後の変

額年金市場で1社も破綻しなかったことの比較分析も行われていない。

また、昨今では、監督当局はERMの推進を推奨しているが、保険事業者に対する規制の役割と範囲について十分な検討がなされているとは言い難い。

このような論点は経営学・ミクロ経済学の学術領域に属するが、この分野で保険業を研究対象としている研究者が稀であること、そして保険を対象にしている研究者が経営学・ミクロ経済学の観点からのアプローチを行ってこなかったことに起因していると思われる。

本講演では、第2次世界大戦後からの生命保険事業の成長の軌跡と規制の変遷を分析し、破綻の連鎖が発生した原因を分析することを導入とし、我が国における保険規制の功罪、自己資本比率による健全性測定の意味合いについて、金融機関に対するものとの類似と差異を踏まえて、保険数理の必要性を中心に議論を行いたい。

2. 参加申し込み

期日:2015年1月27日(火)

下記の【専用申込フォーム】よりお願い申し上げます。

ただし、申込者数が会場定員90名に達した場合は、その時点で締め切ります。

<https://fs222.formasp.jp/c442/form5/>

領収書が必要な場合は記入欄で【領収書 必要】を選択してください。

(事前連絡がなかった方には、領収書を発行しません)。

3. 参加費

会員;1,000円、学生会員;無料、非会員;5,000円

(法人会員は、3名までは1人当たり1,000円、それ以上は1人当たり5,000円となります)

参加費は、研修会当日、会場受付にてお支払い下さい。

4. 講師略歴

1981年早稲田大学理工学部数学課卒業。第百生命保険、ミュンヘン再保険会社日本駐在員事務所、リインシュアランスグループオブアメリカ日本支店、マニユライフ生命保険と生命保険および再保険の分野で30年にわたり一貫してプライシング、リスク管理を担当し、商品開発・プライシング担当の執行役員を務めた。

2010年退職し武蔵大学大学院経済学研究科博士後期課程に入学。学位を取得後、早稲田大学保険規制問題研究所招聘研究員および東京経済大学現代ファイナンス研究センター客員研究員を務め、2014年4月より早稲田大学大学院商学研究科助教。

以上

[会場地図]

